



大阪市立

鶴橋小学校

校長名	近藤 英幸
所在地	〒544-0034 大阪市生野区桃谷2-20-32
電話番号	06-6731-2278
FAX番号	06-6731-1797
HPアドレス	https://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e671482

QRコード



主な学校行事

4月	入学式、対面式
5月	春の遠足
6月	運動会 体力・運動能力テスト プール開き
7月	期末個人懇談会
8月	
9月	つるっ子祭り（土曜授業） プール納め
10月	林間学習 全校遠足 修学旅行
11月	学習発表会（日曜参観）卒業遠足
12月	期末個人懇談会
1月	
2月	入学説明会
3月	卒業式 修了式

教育目標

豊かな心、確かな学力をもち、
たくましく生きる力を身につけた子どもを育てる

めざす子ども像

- きまりを守り安全な学校生活を送る子ども
- ちがいを認め、よさを認め合う子ども
- 礼儀正しく丁寧な言葉遣いや行動ができる子ども
- めあてをもち、進んで学ぶ子ども
- 楽しく運動に親しむ子ども
- 自分を大切にし、仲間を大切にす子ども

令和6年度全国学力・学習状況調査

結果概要

- 平均正答率については、国語科・算数科ともに大阪市・全国の値を下回る結果となった。
- 国語科では、特に「情報の扱い方に関する事項」領域や「書くこと」について全国平均を10ポイント程度下回り、課題がみられた。
- 算数科では、「Dデータの活用」領域について全国平均と14ポイント程度下回り課題がみられた。
- 平均無回答率については、国語は全国平均を下回り、算数は上回る結果となった。

自校の取り組みの成果と課題、アクションプラン

- 【成果】
【国語】 情報の扱い方に関する事項の中で、「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方」については理解することができた。
- 【算数】 数量の関係を、「□を用いた式に表すことができる」ことに成果が見られた。
- 【質問紙】 「自分には、よいところがある」の項目に最も肯定的な回答をした児童の割合は、64%で 全国平均より 20%高い。【授業や学校生活では、友達や周りの人を大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか】の項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合は、52%で大阪市や全国の平均と比べて 5%ほど高い。

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

結果概要

体力合計点の対全国比の割合では、全国平均を1としたとき、男子は1.19、女子は1.01と全国平均を上回った。【運動やスポーツをすることは好きですか?】の質問項目で、男子において肯定的な回答をした児童の割合は100%となった。女子において、肯定的な回答をした児童の割合は81.3%となり、嫌いと答える児童の割合は18.8%の結果となった。1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合において、男子は7.7%、女子は31.3%の結果となった。



鶴橋小学校は令和9年4月に北鶴橋小学校との再編を予定しています。詳しくは生野区役所ホームページをご覧ください。→



重点目標

- 知識・技能の習得及び豊かな心を育成し、それらをもとに考えたり判断したり、自己を表現したりする力を養うとともに、自らの夢や目標をもって生活しようとする態度を養う。
- 体育学習の進め方を工夫するとともに、休み時間や放課後等に連んで運動に取り組む児童を増やすことで、児童の体力・基本運動能力と健康への意識向上を目指す。
- キャリアパスポートの活用を推進して、学校生活のあらゆる場面で児童一人一人が活躍できる場所を設定し、主体的な活動を活性化させることで、児童の自己肯定感の向上を目指す。
- 研究主題を「自分の考えを持ち、対話的に学び合う子どもの育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体化をめざした授業づくりを通して～」として、①確かな学力・語彙力の育成②個別最適な学び③協働的な学びの3つを研究の柱として取り組む。

【課題】

【国語】 「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方を工夫すること」や「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」に課題が見られた。

【算数】 「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」ことや「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」ことに課題が見られた。

【質問紙】 「学校へ行くのは楽しいか」との項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合は 48%と大阪市や全国より 2%程度高かったが、肯定的な回答全体で見ると、80%となり、大阪市や全国の値より 4%程度低い結果となった。

【アクションプラン】

国語科では、説明的文章の読解を中心に、教材分析を教員全員で共有しながら、授業のユニバーサルデザイン化（視覚化・焦点化・共有化）に取り組む、特に要約等の書くことを重点においた授業の充実を図る。

算数科では、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習展開を行いながら、チームティーチング等授業形態を工夫する。また、算数が苦手な児童については、デジタルドリルを活用して、学びなおしの機会を作り、その児童にあった学習を進めている。

言語活動や体験活動を通して、学びを深め、友達と交流しながら、児童が「わかった、できた」と実感を得ようとする活動の充実を図り、児童の学力及び自己肯定感の向上につなげていく。

自校の取り組みの成果と課題、アクションプラン

【成果】 本年度も鶴橋向上委員会の子供達を中心に、休み時間の体育館や多目的室での遊びの仕方や内容等を考えていき、できるだけ運動ができるように工夫することができた。出前授業にて、トッパスアリーナによる水泳教室等を開催し、児童達に泳ぎ方を教えてもらい、やる気の向上を図った。

【課題】 昨年度と比べると体力の合計点は男女とも大きく伸びているが、一方で、女子のスポーツに否定的な回答の割合と運動習慣がない児童の割合が増えていく。

【アクションプラン】 引き続き、運動することの大切さを伝えていくと同時に、休み時間に行える遊びに参加するような仕組みを作っていく。

校長先生のメッセージ

鶴橋小学校の子どもは元気で明るく、優しい子どもがたくさん通う学校です。これからも保護者、地域のみなさんとともに、子どもたちの安心・安全を保障し、楽しみながら学習ができる笑顔あふれる学校にしていきたいと、日々最善の教育活動を進めています。そのために、すべての教員・職員が力を合わせて、全力で鶴橋小学校を支えています。

運営に関する計画

計画のエッセンス

本校は、体験活動を基盤とした豊かな言語力と、論理的思考力に基づいた確かな学力、自主的・自律的な生活態度を身につけた子どもを育成することを目指し、地域の協力も得ながら、各学年で様々な体験活動を計画・実行している。また、学校行事等でも児童一人ひとりが活躍できる場面を多く取り入れた活動を多く取り入れている。

併せて、研究主題を「自分の考えを持ち、対話的に学び合う子どもの育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体化をめざした授業づくりを通して～」とした。教材分析の方法を教員全員で共有しながら、①確かな学力・語彙力の育成②個別最適な学び③協働的な学びの3つを研究の柱として取り組む。

言語活動や体験活動を通して、学びを深め、友達と交流しながら、児童が「わかった、できた」と実感を得ようとする活動の充実を図り、児童の学力及び自己肯定感の向上につなげている。

【中期目標、年度目標等】

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいじめないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度をめぐりに児童アンケートで「自分には良いところがある」と答える児童の割合を90%以上にする。

「特色ある学習活動」 および 「家庭・地域等との連携」

家庭・地域等との連携

鶴橋こども見守り隊

本校における見守り隊は、登下校の見守りをはじめ、校外におけるあらゆる機会を通じて子どもたちを見守り、明るい一歩をかけてくださる等、子どもたちの健やかな成長に欠かすことのできない方々です。月1回本校にて行われる情報交換会においては毎回見守り隊隊員の方がご参加くださり、子どもの様子及び生野区内の安全に係る情報の交換を行うなど、子どもの安全を第一に、優しく温かく学校を支えてくださる心強い存在です。

特色ある学習活動

ワクニコ班によるたてわり活動

本校では子どもたちが「ワクワク・にこにこ」しながら交流できる、互いに顔の見える関係づくりを目指し、1年生から6年生までによる異学年交流に力を入れている。

毎週木曜日の児童集会では毎回たてわり班活動を取り入れることで、子どもたちの関係づくりを大切にしている。全校遠足におけるオリエンテーリング及び、遊びのお店を運営するグループとそれらのお店を見て回るグループに分かれて活動するつるっ子祭りでは、普段の活動で培ったチームワークを存分に発揮し、それぞれに役割をもって力を合わせて取り組む姿が見られる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末をめぐりに、小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母体集団で比較し、いずれの学年も令和3年度から2ポイント減少させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達とで話して合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、1ポイント増加させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.02ポイント向上させる。（※全国平均を1とした時の割合）

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下）を満たす教員の割合を90%にする。

